

## 鏡神社と源氏物語

分野 歴史

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



鏡神社境内にある源氏物語・玉鬘で詠まれた「鏡の宮」の歌碑

(『かがみん話』より)

鏡山は平安王朝にその名が知れ渡り、ここには『源氏物語』に登場する「玉鬘」にまつわる話が残っている。

光源氏に寵愛された夕顔の忘れ形見の玉鬘は、美しさが増し、近隣からあまたの求婚者が現れた。肥後国の豪族である太夫監（たいふのげん）」は、次のような歌を玉鬘に贈り求婚してくる。

「君にもし心たがはば松浦なる 鏡の神をかけて誓はむ」

姫君を万一疎んずるようなことがあれば、どんな神罰でも受けます、と松浦の鏡の神にかけて誓いましょう。

玉鬘は、源氏物語に登場する美少女。頭中将と夕顔との間に生まれた子。鏡の神は、唐津市鏡神社のことである。

乳母は、「年を経て祈る心のたがひなば 鏡の神のつらしやと見む」と、さりげなく断りを歌にこめて返した。納得いかない太夫監は、直談判に及ぶ。これをきっかけに京へ向けて脱出を企てた玉鬘は、鏡山の西側の麓にある洞窟に隠れてその日を待つ。

なお、地元の伝説には『源氏物語』にはない、玉鬘の都へ脱出までの話が見える。

あるとき玉鬘は念願成就記念のため境宮に向かう途中、怪我に苦しむ白狐に遭い、哀れとおもって丁重に手当てをし、自分の領布を与えた。そして帰ってみると不思議にも京への舟の手配が出来ていた。しかし太夫監の追っ手を恐れ悩んでいると白狐が現れ、「恩返しに私が身代わりになりましょう」と姫を励ましたので、姫たちは夜半に太夫監の目を逃れて京へ向かった。太夫監は白狐の化身とはしらず、玉鬘の後を追わなかったという。以来、玉鬘の隠れた洞窟には白狐が棲み付き、土地の人は『玉鬘の白狐』と呼び、神狐として崇められたという。

玉鬘の隠れた洞窟は『玉鬘窟古墳』の横穴式石室で、現在も残っている。また、『源氏物語』「玉鬘」を題材にしたものに、観世流謡曲「玉鬘」がある。

◎引用・参考文献（出典）

◆『鏡神社パンフレット』  
鏡神社（玉鬘古墳）より

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts_lib/index.html)